

神奈川の巨石信仰

超歴史研究会 皆神 隆

1. 石尊大権現

神奈川の巨石信仰については、ほとんど知られていないのが現状であるが、その昔より「相模国の石尊社」として、関東はもとより、東海、甲信越、東北南部まで広く信仰されてきた大山講が存在している。これほど多くの講が各地で組まれ、参詣され、多くに親しまれ、語り継がれて、各方面から研究、検証されている山は少ない。「相模大山」は、神奈川県西部に広がる丹沢大山国定公園の東南端に位置し、伊勢原、秦野、厚木の各市にまたがっており、標高は1,252メートルである。山容はいわゆる「神奈備」型を呈し、これに雨雲がかかると天候が崩れる。遠く相模灘の海上からも望まれる大山は、平野部の農民は勿論のこと、沿岸の漁民たちにとっても天候を知るためのバロメータであった。古来「雨降山」と称されてきた由来もそこにある。



大山の中腹には大山阿夫利神社の下社があり、山頂には奥社が置かれているが、この奥社は、かつて石尊社と称し、御神体は立石状に突出した自然石であるという。山自体を神と考える里人たちによって、山頂部に発見された立石状の露岩を、山霊を象徴する神体と

相模大山

して祀ったものと考えられている。それが後に修験道の隆盛により、「石尊大権現」と呼ばれて広く信仰を集めることとなった。大山阿夫利神社の創建は崇神天皇の御代と伝えられ、御祭神は大山祇大神、高おかみ神、大雷神である。標高約600メートルにある「雨降山大山寺」は、関東三十六不動霊場の第一番札所であり、創建は平安時代の山岳仏教が盛んな頃と推定されている。大山寺は、明治以前は阿夫利神社と一体であって神仏習合の一大聖地であったが、明治以降神社と分離した。大山には現在でも多くの坊があつて宿坊となっており、往古ほどではないが、大山詣での講中の団体が賑わっている。

1,960年、当時神奈川県文化財専門委員であつた赤星直忠氏により山頂部の発掘調査が実施された。このときの調査で、縄文土器が発見され、その数60片に及んだ。



大山阿夫利神社奥社（石尊）

とインドのアシヨカ王に
関係するアヒルクサ文字、
エジプトの象形文字が混
在していることを指摘し
ている。上の段に父なる
太陽「ラー」の神が刻印
され、下の段にはシヌメ
ールの大地母神「キ」を
表す甲骨文字と牡牛神
「ハル」を表す甲骨文字
が彫られている。

酒井勝軍氏によると、
大山阿夫利神社は、アフ
リカの神を祀った神社で
あるという。彼は、かの

他には、平安時代のものと推定さ
れる壺、甕の類、室町時代のもの
と推定される青銅製層塔や小型土
製観音座像と蓮華座、江戸時代の
盛んな信仰を偲ばせる寛永通宝を
はじめとする古銭や陶磁器類など
の遺物が多く出土した。

山中には岩刻文様の刻まれた石
も存在し、歴史言語学者の川崎真
治氏は、そこに刻まれた文字を解
読し、中国の甲骨文字系統の文字

「葦嶽山ピラミッド」を発見する
直前に、阿夫利神社へ詣でていた。
酒井氏は、アメリカ、ロシア、パ
レスチナなどを巡る過程で深くユ
ダヤ問題に傾倒し、日本とユダヤ
が協力して神政成就を成し遂げる
使命を帯びた民族であると規定し
た人物である。「竹内文書」の影響
を受けて、日本ピラミッド論を提
唱し、昭和9年に「太古日本のピ
ラミッド」を著した。同著によれ

ば、大山阿夫利神社の祭神は伝説
では不明で、単に大山祇大神を祭
るとあるが、実は阿弗利加洲（あ
ふりかしゅう）の国祖、天絵支天
夫利降尊（あめえだあふりかのみ
こと）が御祭神であるから、エジ
プトとの関係上まずこの神社を参
拝したという。「葦嶽山ピラミッ



ド」は、酒井氏によって日本で最
初に発見されたピラミッドであり、

2万2、300年前の太古に、鵜
草不葦合（うがやふきあえず）第
12代彌廣殿作尊（やひろとのつ
くりみこと）天皇が、皇太子時代
に造営されたものといわれる。

2. 日向山巨石群

岩刻文様石

大山のほぼ真東には標高40
4メートルの「日向山（ひな
たやま）」が存在し、そこには
「日向薬師（ひなたやくし）」
がある。日向には、古くは坊
中八大坊があったといわれ、
丹沢山塊一帯における修験道
の代表的霊場のひとつである。
丹沢山塊は、修験の道場とし
て恰好の場所であったことか
ら、古来、大山、八菅、日向
を本拠とした修験者たちが、
その峯々を跋涉して修法を行
なった。日向薬師の創建は靈
龜2年（716年）とあるが、
伝説によれば、持統天皇13年（6
99年）、役行者が八菅山に來山し



た折、薬師仏の秘法を修し、このとき百体の薬師、百体の地蔵、百体の不動を彫って開眼供養、有縁にその徳を分かつために虚空に投げ、薬師は日向に、地蔵は蓑毛に、不動は大山に落下して、おのおの日向薬師、延命地蔵、大山不動尊になったという。日向山の中腹には日向薬師の奥の院があり、かつてはそこに虚空蔵菩薩が祀られていたという。



日向山の東側には「亀石」という巨石が存在することが一部の人々に知られていたが、さらにその上には巨石群が存在することを我々は発見した。中腹には東へ向いた巨大な「鏡石」、環状列石等があり、祭祀場と思われる空間が開けている。

日向山の西方には相模の名峰、「大山」が聳えることから、日向山は大山の拝殿である事が伺い知れる。日向薬師の登山道から、道は登りながら約3キロほどで一の沢に達するが、その間に浄発願寺、石雲寺、浄発願寺旧址などを通る。これはかつての行者道であって、今もこの道を通って大山に達する。



養老2年(718年)に華嚴妙瑞という法師によつて開かれた石雲寺の当初の寺院名は「医王山雨降院」で、後に開闢(かいびやく)の縁起に因んで「雨降山石雲寺」と改められている。

3. 真磬塚

日向山の真南には「真磬塚（しんけいづか）」という古墳がある。昭和の初期、日本と世界社という出版社から「光は東方より」という書物が発行された。著者は「竹内文書」の影響を受けて日本古代史の変革を訴えていた山根菊子女史（山根キク）である。同著によ



れば、竹内文書に記されたキリストの遺言書にある「ユダヤ祖モセス王」とはヨセフのことであり、ヨセフの墓は神奈川県伊勢原市にある「真磬塚」であるという。この地名は「伯母様」といい、竹内宿彌の伯母がいた場所であると伝える。近く

並び、畑も造られている。かつては3反の大きさ（900坪）の塚であったが、昭和の初期には既に300坪の大きさになっていたというが、その中心部である部分は今でも残されており、古墳であることが伺える。真磬塚がヨセフの墓であるか否かは謎であるが、いづれにしても、この古墳は日向山を意識して造営されたものと考え

には竹ノ内という地名もあり、竹内宿彌の子孫がいた形跡が残されている。また、この付近には古墳と思われる塚が多く、昭和の初めには360基を越える塚があつたというが、ほとんどは真磬塚の倍塚と言われている。今は真磬塚の上には家が立ち



られる。近くには三ノ宮「比々多神社」があり、周辺にはストーンサークル、宝物殿には付近で発掘された縄文土器があることから、この辺りには古くより人が住んでいたことがわかる。比々多神社境内にある「三ノ宮郷土博物館」には、ここで発掘された貴重な勝坂式の顔面把手が所蔵されており、縄文中期のものである。比々多神社は、

神武6年創建という古社であり、真磬塚のほとんど真南に位置することから、真磬塚を祀るために造られた可能性が高い。比々多神社の主祭神は、豊斟淳尊（とよくむぬのみこと）または豊國主尊（とよくにぬしのみこと）、雅日女尊（わかひるめのみこと）、天明玉命（あめのあかるたまのみこと）、日本武尊（やまとたけるのみこと）である。略記には、海路を渡り大磯より上陸してきた人々が、当地を最上の地と定め、霊峰大山を神体山として、国土創建を司る豊斟淳尊を日本国霊としてお祀りし、国家安泰を祈願したのが始まりとされている。

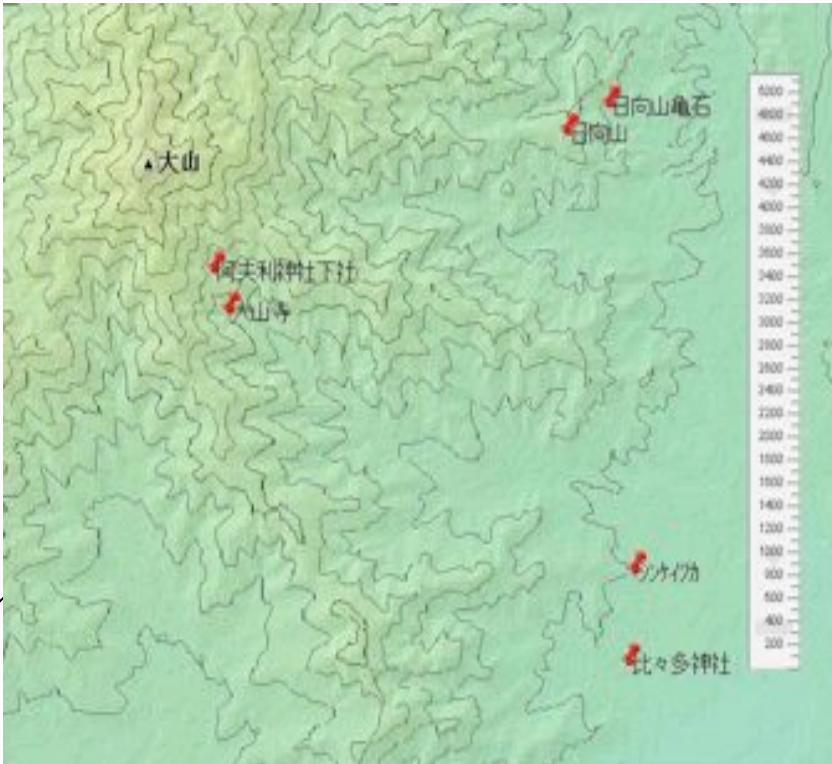
4. まとめ

これまでのポイントの位置関係を考察してみると、日向山、真磬塚、比々多神社は、南北にほぼ直線上に位置することから、意図的に配置されたものと考えられる。山根菊子氏によれば、ヨセフはア

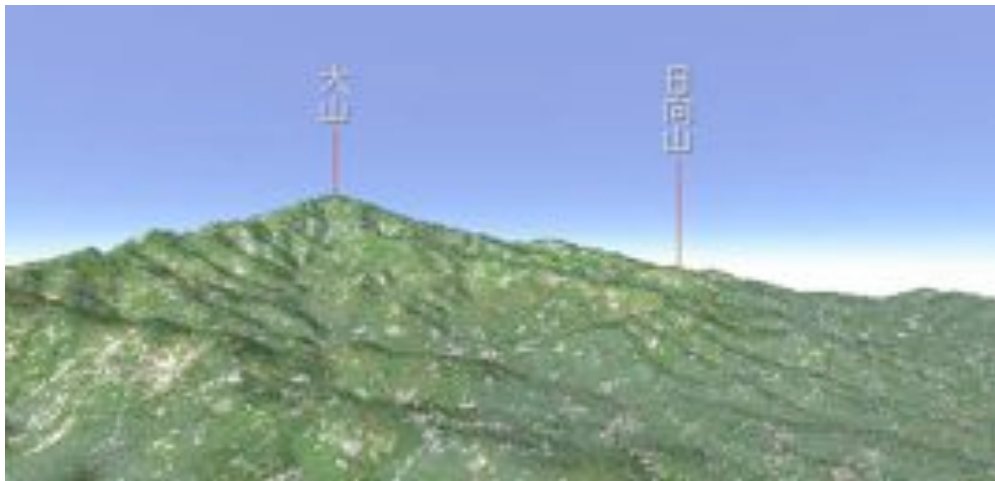
フリ山において風葬され、その骨は分骨されて真磬塚へ埋められ、また一つは御神体として阿夫利神社に祀られたと結論されている。各地点の位置をGPSによって計測し、「カシミール3D」にプロ

ットすることにより、それぞれの位置関係を解析した。その結果、比々多神社、真磬塚、日向山、巨石群がほぼ直線上に位置することが確認された。さらに比々多神社からの眺望をシミ

ュレーションしたところ、大山に對して日向山は小さく、目立たな



関係図（カシ



い存在であることが見て取れるが、そこに拝殿である日向山巨石群があることから、重要視されたのではないかと思われる。

以上より、大山石尊の拝殿である日向山は縄文以来の巨石信仰を残り、日向山を意識して真磬塚が造られ、さらに日向山、真磬塚を祭祀する目的で比々多神社が造られたとすれば、全ての関係が理解できる。比々多神社は霊峰大山を神体山として造営されたというが、それにしても大山と比々多神社の位置関係に不自然なものを感じていた。その北に真磬塚があり、さらにその先には日向山が存在すること、それぞれの位置関係の必然性に納得でき、大山の拝殿である日向山巨石群の重要性を改めて知ることとなったのである。

参考文献

茂木雅博編『山の考古学』『季刊考古学』第63号 雄山閣出版

川崎真治『謎の神 アラハバキ』六興出版

渋江二郎『日向薬師』中央公論 美術出版

電子復刻版『古史古伝』八幡書店

超歴史研究会 URL

<http://www.page.sannet.ne.jp/tsuzuki/>

カシミール3D URL

<http://www.kashmir3d.com/>

了